学校番号	304

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「子どもの発達と保育」　（教育図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・乳幼児の発達や保育に関心をもち、積極的に取り組みましょう。
・保育に関する課題を、児童文化財の制作や実習を通して考え、理解を深めます。また、知識を深めて、進路実現や将来の家庭生活に生かしましょう。
・友達と協力して作品を作ることで、多様な考え方や工夫方法を学び、自分の価値観を確立しましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、保育の意義や子どもの発達を理解した技術を身に付けます。
・学んだことを自分や地域の課題として捉え、生活改善につなげます。

2　学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達の特性や発達過、保育について関心をもち、子どもの発達や保育に関して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育を理解し、保育を取り巻く課題の解決を目指して思考を深め、子育て支援に適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	子どもの発達を理解したうえで、保育に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食生活を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	子どもの発達の特性や発達過、保育に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 実習への取組み、製作計画、実習記録表、レポート、発表、自己評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表、レポート、発表、確認テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作品　観察記録表 レポート、発表、 確認テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 製作計画、実習記録表、 レポート、発表、 確認テスト等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	子どもの発達の特性・過程	○児童観と発達観 ○子どもの発達 ○子どもと遊び ＊児童文化財の作成 ＊保育体験実習	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:子どもの発達と特性に関心を持ち、意欲的に学んでいる。 b:子どもの発達段階を理解した児童文化財を製作できる。 c:子どもと適切に関われる技術を身に付けている。 d:子どもの発達を理解した知識を身に付けている。	授業観察 ノート ワークシート 製作品 発表 自己評価 相互評価 確認テスト
2学期	子どもの生活・保育とは	○生活習慣の形成 ○保育の意義と重要性 ○家庭保育と集団保育 ○子どもと遊び ＊児童文化財の作成 ＊保育体験実習 ＊幼児とのふれあい体験	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	 ○	○ ○ ○ ○ ○	a:保育の意義を理解し、子どもに関する学習に、意欲的に取り組んでいる。 b:保育における地域や家庭の課題を見いだし、解決方法を考えようとしている。 c:子どもと適切に関われる技術を身に付けている。 d:個の発達に応じた保育環境の重要性を理解している。	授業観察 ノート ワークシート 製作品、 発表 自己評価 相互評価 確認テスト
3学期	子どもの福祉	○子育て支援 ＊児童文化財の作成 ＊保育体験実習 ＊保育体験実習は年間8回程度実施する。	○ ○ ○	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:児童福祉の理念に関心を持ち、意欲的に学習している。 b:子育て支援の立場から地域や家庭の課題を見いだし、解決方法を考えようとしている。 c:製作品を、子どもの発達段階に合わせ、発表する技術を身に付けている。 d: 子どもを取り巻く環境の変化に対応し、児童家庭福祉の重要性を理解している。	授業観察 ノート ワークシート 製作品 発表 自己評価 相互評価 確認テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。